

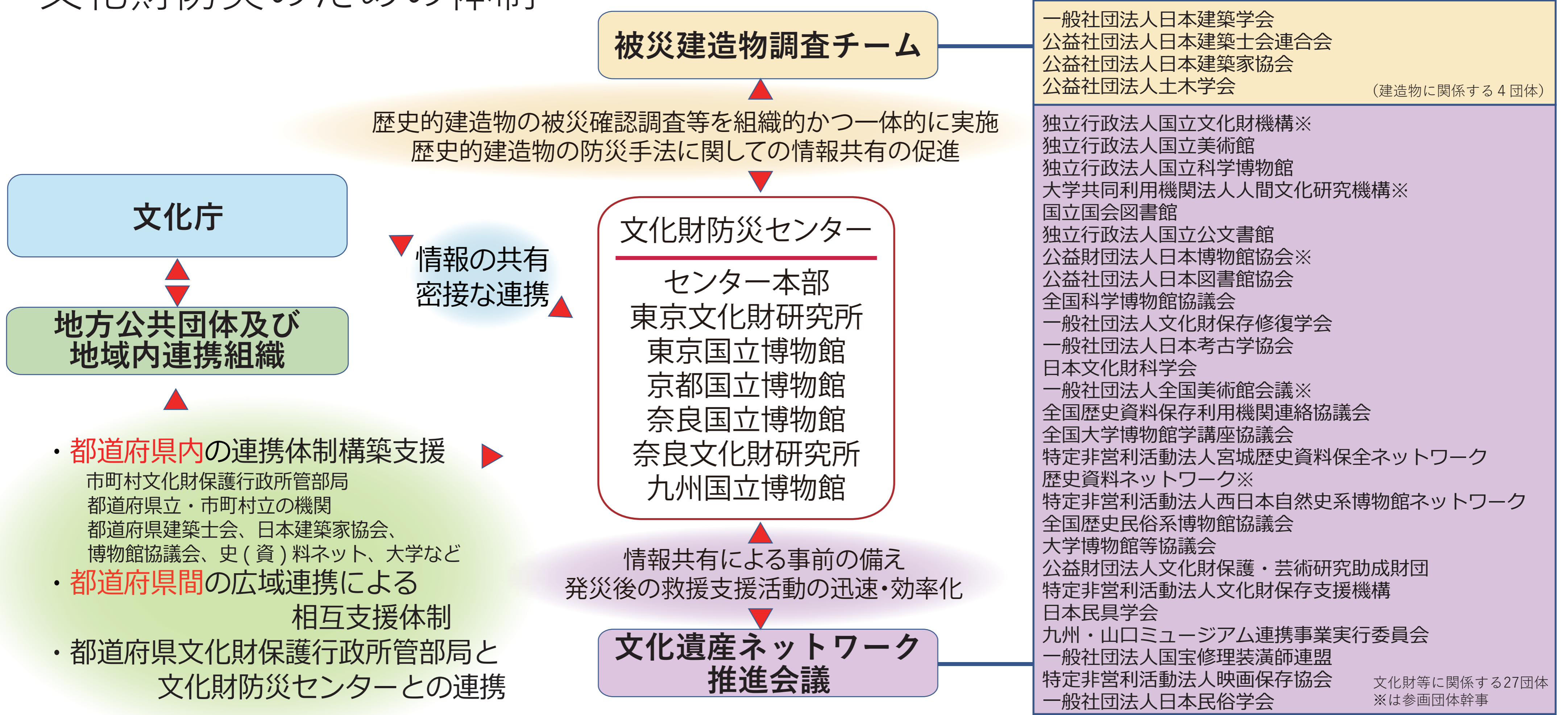
使命

多様な文化財を対象に、これまでに築きあげてきた文化財等関連組織の幅広いネットワークを活かし、**我が国の文化財防災の体制を構築**する。

多様な文化財等の防災

有形文化財（建造物、絵画、彫刻、工芸品、書籍、典籍、古文書、考古資料、歴史資料）、無形文化財（演劇、音楽、工芸技術等）、民俗文化財、史跡名勝天然記念物、伝統的建造物群、埋蔵文化財、図書資料、自然史資料、等々（未指定含む）

文化財防災のための体制



事業と2023年度の活動例

5つの柱

1

地域防災体制の構築

都道府県内の文化財関連団体間の連携体制の構築・促進、地域ブロック内における広域連携促進

2

災害時ガイドライン等の整備

防カビのガイドラインなど、文化財類型毎や収蔵施設単位での活動ガイドラインの整備

3

レスキューおよび収蔵・展示における技術開発

展示収蔵の安全対策、修復処置に関する研究、災害時の緊急避難保管環境に関する研究

4

普及啓発

文化財防災意識向上のためのシンポジウム等の開催、及び文化財防災の実践的な研修の実施

5

文化財防災に関する情報の収集と活用

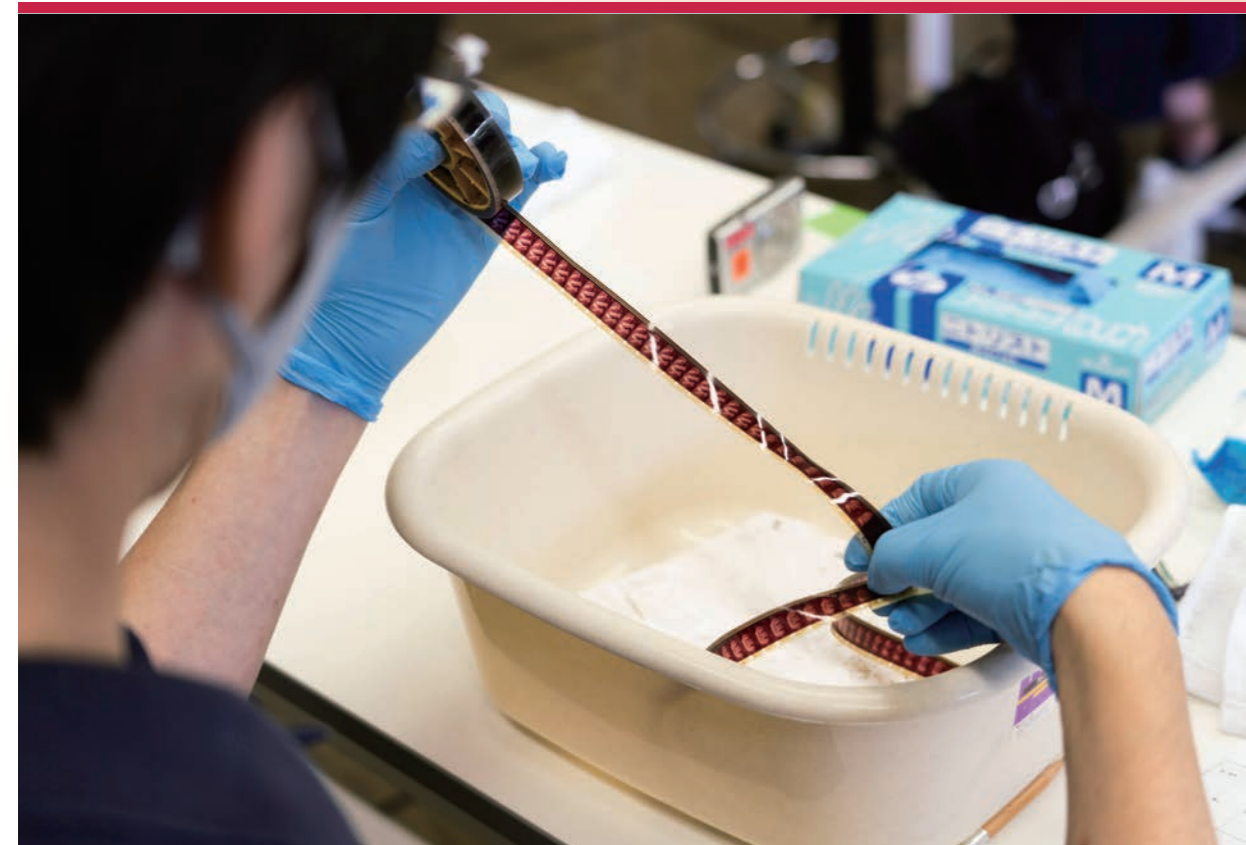
文化財防災総合データベースの構築と、その運用システムの開発

実践活動

災害時および防災の支援

被災文化財の救援活動、及び応急処置の支援

普及啓発① 映画フィルム応急処置ワークショップ



ワークショップの様子

会場：川崎市市民ミュージアム
開催日：令和5年6月30日(金)
映画フィルムやビデオテープといった動的映像資料には、映画作品から在りし日の日常を映したもので様々な記録が残されており、かつての生活様態や失われた風景などを伝え残す貴重な資料といえます。そこで今回は、水損した動的映像資料の応急処置方法について学ぶワークショップを開催しました。

普及啓発③ 文化財防火トークイベント「正倉院と国立民族学博物館の文化財防災」



パネルディスカッションの様子

会場：奈良国立博物館 講堂
開催日：令和6年1月25日(木)
来場者：50名
講演①：
「正倉院の保存と文化財防災」
高畑誠氏
宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室
講演②：
「国立民族学博物館における失火対応と防火体制の再編成」
日高真吾氏
国立民族学博物館
学術資源研究開発センターセンター長

普及啓発② 大災害時代の文化財防災過去・現在・未来—関東大震災100年



パネルディスカッションの様子

会場：東京国立博物館 大講堂
開催日：令和6年8月20日(日)
来場者：160名
講演①：
「震災復興はどう引き継がれたか—関東大震災を中心に—」
北原糸子氏
立命館大学歴史都市防災研究所 客員研究員
講演②：
「次の100年、大災害から何を守るべきか？」
加藤孝明氏
東京大学生産技術研究所 教授
社会科学研究所 特任教授

レスキューおよび収蔵・展示における技術開発 一時保管環境調査



廃校の環境調査(データロガーによる温湿度測定)

被災あるいは避難した資料などは、保存環境の整っていない施設で保存する事が想定されます。普段使用していない施設を一時保管施設と想定して、環境が資料に与える影響を調査し、良好な保存環境の開発に取り組んでいます。